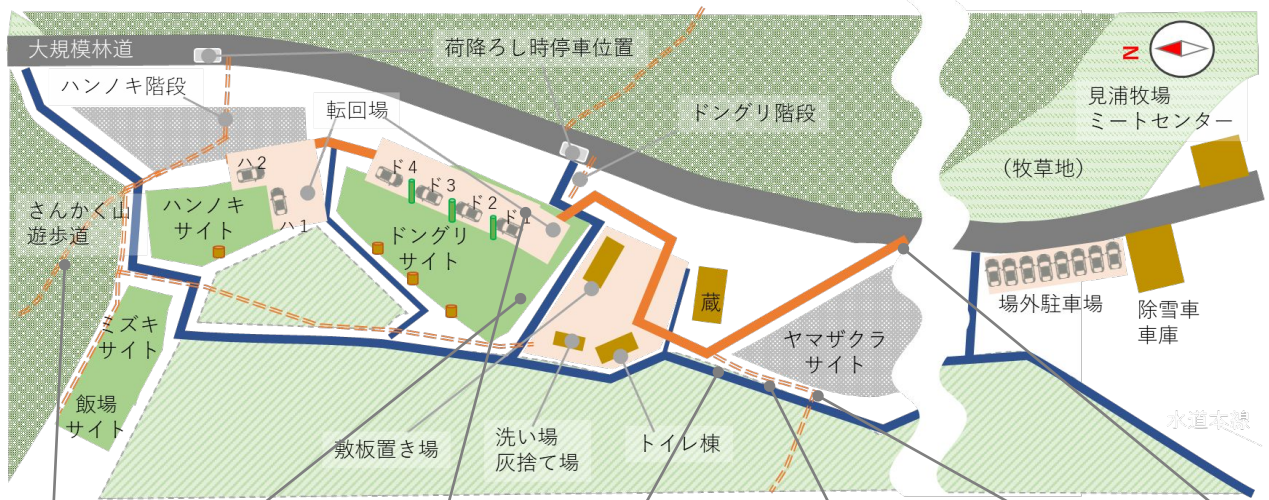


こいた 小板まきばの里通信 Vol 12.1

～落葉樹の冬芽を探そう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高780mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

■キャンプ場周辺で冬の植物を探索しよう！



エゾユズリハ



ツノハシバミ
(冬芽)



ホオノキ
(冬芽)



ミズキ
(冬芽)



レンゲツツジ
(冬芽)



ノリウツギ
(枯れ花)



ミズメ
(冬芽)

■里山の自然観察 ～落葉樹の冬芽を探そう～

冬、葉をすっかり落として枯れたように見える落葉樹の木々も、冬芽の中に花や葉の元を作って春への準備を整えています。多くの落葉樹は冬芽の外側を芽鱗(ガリン)と呼ばれる殻で包むことで芽を冬の寒さや乾燥から守っています。芽鱗の形や枚数は木によって様々。ネコヤナギの芽鱗は1枚のトンガリ帽子のような形で、芽鱗を押し上げて下から綿毛が出てくる様子は帽子を脱いでいるかのよう。モクレン科のコブシやタムシバの芽鱗は毛皮のような毛がびっしりはえていて見るからに温かそうです。ホオノキは何枚かの細長い芽鱗で大きな長い冬芽を包んでいます。レンゲツツジは小さな芽鱗が魚の鱗のように幾重にも重なってつぼみの冬芽を守っています。また、ヤマボウシのように芽鱗の代わりに硬い葉が芽を守る役割をしている木もあります。木によっていろいろな形で寒い冬をのりこえようとしている落葉樹の冬芽を探してみましょ。